

講 座	経済理論・統計, 比較経済, 政策科学, 経営学, 会計学, 組織経済学, 地域公共政策コース
専門科目	マクロ経済学

以下の問 1 と問 2 の両方に解答せよ。なお, 問 1 は解答用紙の 1, 2 ページを, 問 2 は解答用紙の 3, 4 ページを用いて解答せよ。

問 1 45 度線分析の枠組みにおいて, 次のような国民所得の決定モデルを考える。

$$\text{財市場の均衡: } Y = C + I + G$$

$$\text{消費関数: } C = c(Y - T) + A$$

ただし, Y : 国民所得, C : 消費, I : 投資, G : 政府支出, c : 限界消費性向 ($0 < c < 1$), T : 租税, A : 正の定数とする。

- (1) 税額が所得水準に依存して大きくなるように, $T = tY$ (ただし, $0 < t < 1$) とした場合の政府支出増加の乗数を導出せよ。
- (2) 政府支出の増加は全て増税によって賄うという, 均衡予算の原則をとった場合の政府支出増加の乗数を導出せよ。
- (3) 上記の (1) と (2) の場合を比べると, 政府支出増加の乗数効果はどちらが大きいかを説明せよ。
- (4) このモデル分析の結果を踏まえて, 資金調達の方法と政府支出 (公共投資) の効果について論述せよ。

問 2 「IS-LM モデル」, 「マンデル-フレミング (Mundell-Fleming) モデル」, 「総需要・総供給 (AD-AS) モデル」の 3 つのマクロ経済モデルはそれぞれどのような経済モデルであるか? モデル間の差異に注意しながら可能な限り詳しく説明せよ。

以上